

平成28年度～平成30年度 山梨県図書館協議会報告

今後の事業の在り方と

新たな取り組みの可能性について

平成30年11月18日

山梨県図書館協議会

今後の事業の在り方と新たな取り組みの可能性について

テーマ1：「暮らし・生活課題」への支援について

1 取り組みの現状、先進事例等

(1) 取り組みの現状

- ・「図書館で楽しむ子育て in かいぶらり」
NPO 法人子育て支援センターちびっこはうすと共催で、図書館を利用した子育て支援事業を実施している。(年 4 回)
- ・「かいぶらり健康フォーラム」
NPO 法人がんフォーラム山梨と連携し、健康に関するワークショップ、フォーラム、チャリティイベントなどを開催している。(年 4 回)
また、がんに関する情報冊子の寄贈を受け、2 階雑誌コーナーで提供している。
- ・「司法書士無料法律相談会 (かいぶらり暮らしに役立つ相談会シリーズ)」
山梨県司法書士会と共催により、一般向けの法律相談事業を実施している。(年 3 回) 他に山梨県行政書士会の相談会も実施した。

(2) 事例 (文部科学省「図書館実践事例集」より)

- ・鳥取県南部町立図書館：暮らしによりそう図書館へ
- ・今治市立中央図書館：「タオル人」制作プロジェクト
- ・浦安市立中央図書館：駅前公共施設を利用した図書館資料の貸出し・返却サービス
- ・坂出市立大橋記念図書館：回想法 (思い出語り) でイキイキ元気！
- ・小山市立中央図書館：小山市立中央図書館の農業支援サービス
- ・埼玉県立浦和図書館：図書館のビジネス支援サービスをブランディング
- ・和歌山県立図書館：和歌山県立図書館「がん」関係資料コーナー
- ・鳥取県立図書館：仕事と暮らしに役立つ図書館を目指して
- ・広島市立図書館：広島市立図書館のビジネス支援サービスって？

2 今後の取り組みに対する意見

(1) 運営の在り方について

- ・レファレンスサービスについてもっと PR や利用促進の工夫をすべきである。
- ・支援のための資料収集予算を十分確保すべきである。
- ・地域資料では、文化財や歴史分野は充実しているが、産業や経済についての資料が少ない。特に、どのような企業があり、どのような製品や技術を持っているかを知る資料が必要となる。関係団体等から継続的に情報提供してもらった態勢作りが必要である。
- ・生産年齢の方が使いやすい図書館となるためには、サービスの時間設定がそれらの人々の利用時間と一致する必要がある。

(2) 事業の進め方について

- ・図書館で行われたことについて「まとめる」「残す（本にする）」ことによって多くの人が共有できる。
- ・甲府ロータリークラブの寄贈もあり、就活のためのガイドブック等が充実しているが、HP では紹介されておらず、活用の工夫が不十分である。
- ・レファレンスサービス事例は興味深く、図書館の使い方の参考にもなるのもっと活用すべきである。
- ・認知症対策など関係部局との連携によるサービスの取り組みが必要である。
- ・地域の課題というよりも地域住民の生活に密着した情報の提供が必要である。
- ・60代、70代の方々の経験値を社会に還元する場として期待する。
- ・単に専門家を紹介するのではなく、図書館がその活用をコーディネートすべきである。

3 まとめ

人びとの暮らしや生活に密接に関わった課題解決支援サービスを提供するためには、関係資料の充実が不可欠である。特に、一般に入手しにくい地域の企業情報等の非流通資料も広く収集し、積極的な活用を促す工夫が必要である。

暮らしに直結した様々な情報の入手に有効な、所蔵資料やサービスの種類、内容について知られていないことが多く、周知する努力が求められている。また、それらの活用を促す取り組みが必要である。

専門家や専門機関などの外部の資源を活用する場合、分野やテーマを絞り、図書館利用者とそれらの専門家を結びつける具体的なサービスの取り組みが必要である。また、こうしたサービスを実現するためには司書のレベルアップが欠かせない。

1 取り組みの現状、先進事例等

(1) 取り組みの現状

- ・「甲府駅北口まちづくり委員会」との連携
きたぐち音楽会（年3回）の実施などにより、甲府駅北口エリアの活性化を図っている。
- ・「甲府ロータリークラブ」からの資料寄贈
ロータリークラブの地域貢献事業のひとつとして、若者の進路選択や就業支援に役立つ本等を図書館で受け入れてコーナーを設置し紹介している。（3年間実施）
- ・「雑誌スポンサー制度」による企業連携
企業・団体・個人事業主の地域貢献活動として、1年間雑誌を寄贈してもらい、図書館が提供する雑誌のタイトル数を拡充する。（平成30年度9社20誌）
- ・「やまなし読書活動促進事業」による地元書店との連携
図書館と地元書店、出版社などで構成する実行委員会が、年間を通して様々な取り組みを行い、協力して県民の読書活動を進めている。

(2) 事例（文部科学省「図書館実践事例集」より）

- ・秋田県立図書館：スポンサー制度を活用した企業活性化事業
- ・笠間市立岩間図書館：茨城県企画部空港対策課と連携した地方空港PR
- ・塩尻市立図書館：信州しおじり 本の寺子屋
- ・一関市立東山図書館：図書館が人を繋ぎ、地域をつくる
- ・長野県小布施町立図書館：まちじゅうを図書館に

2 今後の取り組みに対する意見

(1) 運営の在り方について

- ・その地域に良い図書館があることは、移住者の居住地選択の条件にもなっており、県立図書館が注目される存在であることは良いことである。
- ・駅前に立地することで、このエリアに大勢の人が集まる要素のひとつとなっている。多様な人々に開かれた図書館であることが街づくりのためには必要である。
- ・協力員の活動は評価すべきであり、幅広くボランティアの活動を推進していくべきである。
- ・地域の学校や大学、市町村等の自治体とつながって地域活性化を図る必要がある。
- ・「サードプレイス」としての役割は大きい。何か目的があって利用するのではなく、そこで課題を発見する場であってもよい。

(2) 事業の進め方について

- ・利用者を待つだけでなく、もう一歩前に出て働きかけ、図書館の機能や役割を伝える必要がある。
- ・課題解決のためのサービスは重要であるが、そこで課題を発見する場としての役割を強調したい。また、そのためのサービスにも力を入れてほしい。
- ・街づくりを進める上で、北口の広場（よっちゃばれ広場）と連動した活動があるのは大変有効である。
- ・個人だけではなく、各種の団体に利用の案内を行うべきである。

3 まとめ

様々なイベント等の取り組みで注目される施設となっており来館者も多いが、地域における図書館の機能や役割をアピールし、地域活性化に役立つ各種サービスを提供していることを知ってもらう努力が必要である。

共通の目的によって地元書店と連携を進めるなど、従来とは異なる視点で新たな連携を模索しているが、イベントのみの一時的な関係で終わらず継続して将来的な成果につなげていくことが必要である。

企業の地域貢献事業等を図書館事業で有効に活用するなど、費用面でのサポートを積極的に受け入れると共に、企業による地域活動の受け皿となるよう態勢を整える必要がある。

甲府駅北口エリアの活性化に協力し、エリア全体に賑わいをもたらすよう各種団体と協力した事業を進める必要がある。立地や施設環境の優位性から「サードプレイス」としての期待も高く、この点でも、さらに多くの人に活用される可能性を持っている。

1 取り組みの現状、先進事例等

(1) 取り組みの現状

- ・「子ども読書支援センター」の活動
県立図書館内に児童サービス担当司書、学校司書、教員、ボランティアなど子どもの読書に関わる人をサポートする機能を設け活動している。
- ・「子どもの読書オープンカレッジ」による山梨大学との連携
山梨大学との連携事業として子どもの読書活動に関わる人々の裾野を広げる研修事業を実施している。(年5回)
- ・「ウィキペディア・エディタソン」の開催
「ウィキペディア (Wikipedia)」のコンテンツ編集者が集まり、編集過程を公開するイベントに協力し、図書館の各種資源を提供した。

(2) 事例(文部科学省「図書館実践事例集」より)

- ・京都府立図書館：図書館とつながる、図書館でつながる
- ・奈良県立図書情報館：図書館が館を離れて情報発信
- ・新潟県立図書館：すべての県民に役立つ、魅力ある県立図書館を目指して
- ・岡山県立図書館：調査・研究センターとしての図書館

2 今後の取り組みに対する意見

(1) 運営の在り方について

- ・博物館や文学館など他の県立施設と連携することによって多様で幅広い学習資源が提供できるはずである。さらに踏み込んだ連携を進めるべきである。
- ・子ども読書支援センターの存在やその役割が知られていない。関係者に広く周知し、活用を図るべきである。
- ・学校図書館をサポートすることは、将来の公共図書館利用者を育てることにもつながっている。いろいろな図書館サービスがあることを知らせるべきである。
- ・遠隔地の学校へのサービスも公平に行われるような工夫をすべきである。
- ・各地域の司書、学校司書に対する研修等の人材育成事業は県立図書館の役割としてきちんと行うべきである。

(2) 事業の進め方について

- ・地域の様々な分野で発表される学術論文、研究成果は、一般に流通せず、資料の所在も分散していることが多いため、利用しにくいことがあるが、これらは県立図書館で原則すべて収集することで活用が図られるはずだ。
- ・学校も含め、県内にある各種の学習成果の保存は将来大変有効な記録になると考えるが、アーカイブ化して蓄積するなどの取り組みを検討してほしい。
- ・図書館自身をもっと図書館を使った調べ方、探し方などを直接教えてくれると良い。図書館の使い方、レファレンスサービスの講座などを開催したらどうか。
- ・ブックリスト等を多く作成しているが、内容にふれたものが少ない。積極的に本の中身を紹介して発信すべきである。

3 まとめ

将来的な利用にも有効な資料の蓄積を行うためには、現時点で利用のないものも含む地道な収集の継続が重要である。また、積極的に寄贈の働きかけを行い、幅広い資料を収集していく必要がある。

図書館内の蓄積情報だけでは、幅広い学習ニーズに対応できず、県内に存在する様々な学習資源を活用できるよう、各施設や専門機関等との連携を進めていく必要がある。

県内全域に公平にサービスするために、市町村図書館や学校図書館とのネットワークを強化し、各図書館が持つ資源の共有化を進める取り組みをより充実させていくことが大切である。また、全体の図書館サービスの水準を向上させるための事業を充実させる必要がある。

将来の山梨を支える子どもたちへのサービスに重点的に取り組み、外部との連携を進めながら子ども読書支援センターの機能を強化していく必要がある。